

令和元年6月19日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2018

課題番号：25370936

研究課題名(和文)スールー海域世界を中心とする真珠のグローバル化に関する文化人類学的研究

研究課題名(英文)An anthropological study on globalisation of pearls in and beyond Sulu maritime world

研究代表者

床呂 郁哉 (Tokoro, Ikuya)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：90272476

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東南アジア島嶼部とくにフィリピン南部に位置するスールー諸島と周辺地域における真珠など特殊海産物の生産と利用に関して関係する各地との国境を越えた流通などの関係などを含めて人類学的に調査研究を実施することを目的としている。その際の研究方法としては人類学的なフィールド調査に加えて、19世紀以前から20世紀にかけてのアジア各地における特殊海産物の生産と利用の歴史的背景などに関しても文献調査等を行ってきた。また、真珠や干しナマコ、鯨肉などの特殊海産物などの「もの」やその生産の技術が、国境を越えて各地に移動し、旅し、そして現場の環境などに応じた変化を遂げてきた状況についても調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、これまで相対的に研究が為されてこなかったスールー諸島をはじめとする東南アジアにおける真珠やシロチョウガイの貝殻など関連する海産物の生産・利用状況の事例に関する実地資料等を、中東や南アジアなどにおける事例に関する文献資料等とも比較検討する作業を行うことができた。こうした比較参照の作業を通じて、地域間での共通点と差異を検証して解明することができ、更に東南アジア地域と日本などを含む域外の間のこうした「もの」と「ひと」(技術者)そして技術それ自体の移動のネットワークについても実地データと文献資料の両方から明らかにすることが出来た。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of this study is to explore anthropologically on production and utilization of maritime products (especially pearls) in and around Sulu maritime world. In this regard, besides ethnographic field work, I have conducted archival research on related topics in the related areas as well, such as whale meats, sea-cucumbers, and mother of pearls and so on, from both contemporary and historical contexts.

研究分野：地域研究、文化人類学

キーワード：真珠 スールー諸島 特殊海産物 文化人類学 シロチョウガイ アコヤガイ

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

申請者は研究開始当時までにスールー海域世界におけるサマ人やタウスグ人などムスリム海民の移動などに焦点を当てて研究を実施してきた（床呂 1999; 床呂）。今回の研究計画では焦点を人から「もの」の移動へとシフトさせ、同地域を中心としつつ関連するアジアやオセアニア各地の間での真珠やその養殖技術などを研究対象として研究を開始した。

（床呂郁哉（1999）『越境—スールー海域世界から』岩波書店）

### 2. 研究の目的

本研究は、東南アジア島嶼部とくにフィリピン南部に位置するスールー諸島と周辺地域における真珠を中心とする特殊海産物の生産と利用に関して関係する各地との国境を越えた流通などの関係などを含めて人類学的に調査研究を実施することを目的としている。

### 3. 研究の方法

研究手法としてはスールー海域世界に関係する各地の現場における真珠の生産と流通・利用に関する文化人類学的なフィールド調査に加えて、19世紀以前から20世紀にかけてのアジア各地における特殊海産物の生産と利用の歴史的背景などについても文献調査等を行ってきた。

### 4. 研究成果

本研究を通じて、まずスールー海域世界を含む東南アジアと関連する東アジア、日本、オセアニアなどにおける真珠の母貝や養殖技術、技術者の移動ネットワークの歴史的背景と、現状に関して現地でのデータを元にその動向を明らかにした。またその状況を他の特殊海産物と比較検討することができた。真珠に関しては、明治期にアコヤガイを母貝とする真珠養殖が日本で開始された後、早くも大正期に入ると海外での真珠養殖の試みが日系企業の手によって行われている。たとえばシロチョウガイに関しては木曜島、アル諸島、スールー諸島、ブトン島などで母貝の養殖や採貝が古くは戦前から実施されてきた。こうした技術の移転や拡散においては、もともとは日本で開発されたアコヤ真珠の養殖技法を基本としながらも、各地の自然環境や市場の条件などに応じて少なからず養殖技術の変容や独自の適応などが生起しているのも特徴であることが明らかになった。またスールー諸島など東南アジアと沖縄などの間で、養殖技術者の手によって母貝の地域間移動や技術・道具などの移転・移動などが展開されてきている状況の一端を明らかにした。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計10件）

- ① 床呂郁哉・河合香吏（2019）「新たな「もの」の人類学のための序章—脱人間中心主義のための可能性と課題」床呂郁哉・河合香吏編『もの人類学2』京都大学学術出版会、pp.1-25.（査読有）
- ② 床呂郁哉（2019）「「もの」が創発するとき—真珠養殖の現場における「もの」、環境、人間の複雑系的なエンタングルメント」pp.45-61.（査読有）
- ③ Ikuya TOKORO & Kaori KAWAI [2018] Why the Anthropology of Mono(Things)? IN Ikuya TOKORO & Kaori KAWAI (eds.) *An Anthropology of Things*. pp.18-34, Balwyn North Victoria: Kyoto University Press & Trans Pacific Press（査読有）
- ④ Ikuya TOKORO [2018] Mono beyond control: A New Perspective on Cultured Pearls. IN Ikuya TOKORO & Kaori KAWAI (eds.) *An Anthropology of*

*Things*. pp.81-95. Kyoto & Balwyn North Victoria: Kyoto University Press & Trans Pacific Press (査読有)

- ⑤ 床呂郁哉 (2018) もの研究の新たな視座. 桑山敬己・綾部真雄(編著). 『詳論 文化人類学』 pp.265-278 ミネルヴァ書房. (査読無)
- ⑥ 床呂郁哉 (2016) 「野性のチューリングテスト」河合香史編『他者』京都大学学術出版会、pp.399-418. (査読有)
- ⑦ 床呂郁哉 (2015) 「旅するフィールドワーカー—真珠をめぐる複数のフィールドの調査から見えてくるもの」、西井凉子編『人はみなフィールドワーカーである—人文学のフィールドワークのすすめ』 pp.108-127、東京外国語大学出版会. (査読無)

[学会発表] (計 8 件)

- ①床呂郁哉「東南アジア島嶼部における森林・水産資源の利用と環境問題に関する試論—ボルネオ島の事例を中心に」、 「アジアの環境問題勉強会」於東京外国語大学 AA 研、2018 年 1 月 20 日.
- ②床呂郁哉 「「もの」の人類学の可能性—日本における物質文化研究の展開からの応答」、日仏会館主催講演会、於日仏会館 (招待講演) 2015 年 11 月 24 日.
- ③床呂郁哉 「グローバル/ローカルを超えて—東南アジア海域世界から見る新たな世界のかたち」、アジア・アフリカ言語文化研究所 (以下 AA 研と記) 50 周年シンポジウム・パネル講演、於一ツ橋講堂、2014 年 10 月 24 日.
- ④床呂郁哉 「真珠貝に共感を覚えるとき—『もの』の人類学からの情動研究の可能性」、AA 研基幹研究「人類学におけるミクローマクロ系の連関」(以下、基幹研究人類学班と記) 主催シンポジウム「情動と社会的なるもの」、於 AA 研、2014 年 7 月 5 日.

[図書] (計 2 件)

- ①床呂郁哉・河合香史編 (2019) 『もの人類学 2』京都大学学術出版会、計 298 頁.
- ② Ikuya TOKORO & Kaori KAWAI (eds.) (2018) *An Anthropology of Things*. Kyoto & Balwyn North Victoria: Kyoto University Press & Trans Pacific Press. 全 406 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。